

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調 査 名 一般県道 下三永吉川線 外 災害復旧事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 道路 地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.1	調査位置	広島県東広島市西条町下三永 地内	北 緯	34° 23′ 42.3557″
発 注 機 関	広島県西部建設事務所 東広島支所	調査期間	2019年 2月 20日 ～ 2019年 2月 22日	東 経	132° 44′ 28.0379″
調 査 業 者 名		主任技師		現 場 代 理 人	
コ ン 定 者		ボーリング責任者			
孔 口 標 高	GH=201.02m	角 度		方 位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
地 盤 勾 配		鉛 直		使用機種	試 錐 機 YBM YBM-05D エンジン ヤンマー NFD-7
総 削 孔 長	10.00m	ポン プ	安田工業 TAP-120		

標 尺	標 高 (m)	深 度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色 相	対 密 度	対 稠 度	地 質 時 代 名	記 事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験							試料採取		室内位置試験	削 孔 月 日				
												深度－N値図	N 値	深 度 (m)	100mmごとの打撃回数			50回の貫入量	自沈時の貫入量	深 度 (m)			試料番号	採取方法		
															0 100	100 200	200 300									
	200.42	0.60		粘土混じり砂		灰～黄灰				現世 崩壊土に相当する砂質土であり、やや雑多な層相を呈す。粗中砂を主体に、少量の細礫分を含有する。微量の植物片を混入している。																
1				砂		淡灰			rd3	在来地盤に相当する砂質土。細中砂を主体に、所々で微砂および細粒土の薄層を挟む。全体にマナ土質である。																
2				砂混じりシルト		灰と淡黄灰				2.6～3.25m間は含水量が高く、コアは少し潰れた状態にある。																
3	197.77	3.25		砂		灰と褐灰			軟らかい～中位	2.7m以深は粒径が増し、粗中砂が主体をなしている。																
4				砂		灰と褐灰				微砂を均等に含んだシルト層である。やや色調変化に富み、所々で層状に強い酸化変色を伴う。																
5	195.42	5.60		砂		灰と褐灰				3.7～3.95m間にシルト質砂の薄層を挟む。																
6				砂		淡灰と灰褐と淡黄灰			密な中～ぐらゐの	全体に中程度の硬さを有し、指で押しても深くはへこまない。含水量は中位である。	02/22 6.88															
7				砂		淡灰と灰褐と淡黄灰				やや粒度変化に富んだ砂層である。全体としては中砂優勢であり、所々で粗砂主体層を挟む。																
8				砂		淡灰と灰褐と淡黄灰				また、8.55～8.7m間には、シルト質の微砂を薄層状に挟んでいる。																
9				砂		淡灰と灰褐と淡黄灰				2～3mm径の細礫を少なからず含有するものの、大径の礫分はまったく認められない。																
10	191.02	10.00		砂		淡灰と灰褐と淡黄灰				全体に含水量は中位以下であり、特筆すべき高含水区間は認められない。																
				砂		淡灰と灰褐と淡黄灰				5.6～5.75m間、6.55～7.0m間には弱い酸化変色を認める。																